

DX時代の企業と情報システム～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割とイノベーションを生み出す超上流作法【会場】（4124147）

DX時代の企業と情報システムにおいて大きく2つの視点から学びます。まずは次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割について、企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。次にイノベーションを生み出す超上流作法について、新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

開催日時	2024年10月16日（水） 10:00-17:00会場 2024年10月17日（木） 10:00-17:00会場
カテゴリ	事業戦略策定・事業戦略検討 15戦略策定・15戦略検討・15企画・15企画検討 詳しく見る
講師サテラー	中村(中)尚美
講師	中村尚美 氏 （株式会社Email 代表取締役） 元某の上場企業にて、経営からマーケティング、販売までを担当し、業務システムのグローバル展開から先端技術を活用したAIプロジェクトに参画し、J/A/S活動を通じて、数社ビジネスの革新や企業内イノベーション手法を研究、創造的発想によるアイデア構築と論理的思考からの妥当性と実現性検証をメソッド化し、DXプロジェクトに対応するフレームワークとしてイノベーション経営カレッジ（NACJ）にて公開、出版スタイルの構築種別プログラム（Shall I say） [note]として、自ら自らリーダー兼へ展開している。
参加費	J/A/S会費170,000円（税別）一般100,000円（税別）1名参加50,000円（税別）※テキスト込み、テキスト込み【受講権利枚数2枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NIPSS）東京本社2F201
対象	IT部門に新たに参画になった方、新入社員～現役若手社員の皆さま 詳しく見る
講師構成	講師、グループ演習
定員	25名
参加ポイント	※IT関連カポイント対象のセミナーです。（2時間ポイント）
IT知識検定	12

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

DX時代の企業と情報システムの関係において大きく2つの視点から学びます。
まずは企業の意思決定に必要なビジネス・プロセス・エンジニアリングを学びます。
次にイノベーションを生み出す超上流へのアプローチ「論理×創造」を、手を動かしながら学んでいきます。

◆DX時代の企業と情報システム1
～次世代型ビジネスプロセスエンジニアの役割

DXという言葉を日常的に聞くようになりましたが、ユーザー企業やその情報部門において、DXとはどのような意味や範囲をさすのでしょうか。
ユーザー企業の経営層やユーザー部門からも最新テクノロジーを活用した業務変革の期待をされることがありますが、流行りのAIや高価なパッケージソフトを導入すれば、IT先進企業に生まれ変わるものではありません。
ビジネスとテクノロジーの両側面を理解し、距離（関係性）を埋めるのが情報システム部門（あるいはDX推進部門）の大きな役割です。
従前の経験や勘などではなく、データとアルゴリズムによって、ビジネスの意識決定や課題解決などを行うにはどうしたらよいか。
次世代型のビジネスプロセスエンジニアとしての役割を学びます。

◆DX時代の企業と情報システム2
～イノベーションを生み出す超上流作法

デジタイゼーションとデジタルイゼーション。言葉は似ていますが、意味は大きく異なります。
DXを推進するにあたり、必要なのはデジタルイゼーションです。
それでは、これに必要なスキルは何でしょうか。
問題解決や生産性向上のあらゆる場面において、ロジカルシンキング（論理）はビジネスパーソンには当然必要です。
そこにさらに、新しいことを考え出す感性、イノベーションを生む創造力が不可欠になります。
本講座では、ビジネスイノベーションのしくみと新しい攻守のITにおける超上流のアプローチ「論理×創造」を手を動かしながら学んでいきます。

■参加者の声

考え方と事例を交えて話していただいたため、とても理解しやすかった。
ビジネスプロセスエンジニアに求められる思考法を、非常にわかりやすく教えてもらえる。
実践したワークも身近なテーマを基にしたものが多く、どんなバックグラウンドを持つ人でも理解しやすい内容と感じた。